



# なんよう

No.105  
2017.4.1

## 平成29年度楠葉同窓会 総会のご案内

平成29年 5月27日(土) 「佐賀ワシントンホテルプラザ」で開催

佐賀大学楠葉同窓会の総会を次の通り開催します。

今年度は役員改選の時期になっています。役員に立候補される方は下記の要領で、必要事項を記入のうえ、同窓会事務局内の役員選出委員会に届けて下さい。



記

### 【総会】

日時 平成29年 5月27日(土) 16時～

会場 佐賀ワシントンホテルプラザ 11階「銀座八丁」  
佐賀市駅前中央1丁目164番地  
(TEL 0952-25-1111)

参加者 役員、代議員、顧問 (会則11条)



### 役員改選 (公示)

### 立候補者の受付について

「楠葉同窓会会則」第6条及び「役員選出規定」に基づき、5月27日の総会で選出される次期会長、理事及び監事の候補を次の要領で受け付けます。

- 1、立候補資格 楠葉同窓会正会員
- 2、受付期間 5月8日～5月17日
- 3、届出方法 次の内容を記載した書面を事務局へ提出
  - ① 立候補の区分 会長、理事、監事
  - ② 氏名
  - ③ 現住所
  - ④ 出身学部、学科、入学年次

4、総会当日の、会場での立候補は受け付けませんので御了承ください。  
楠葉同窓会役員選出委員会

青山 祐二 (文理・経済 S38年入)  
石丸 新 (文理・法律 S40年入)

連絡先 佐賀大学楠葉同窓会事務局  
佐賀市本庄町1番地佐賀大学内  
☎ 0952-23-1253

### 交流会及び 懇親会の ご案内

同窓生の絆を深めるとともに、学生に対しては社会人としての大事なこと、仕事に対する心構え、就職活動への助言等を行い、コミュニケーション能力の向上に資することを目的として開催します。

日時 平成29年10月28日(土) 15時～

会場 経済学部「4号館」・大学会館「食堂ホール」



# 佐賀の この頃紹介

早いもので、平成29年も2ヶ月が過ぎ3月に入りました。今年も、昨年のような大雪もなく、温暖の差は多少ありますが、暖かい日が続いております。

さて、佐賀では、「佐賀藩10代藩主 鍋島直正公の銅像」が建立され、3月4日(土)に、鍋島家第15代当主「鍋島 直晶」氏

(写真：右から3番目)をはじめ、官民でつくる再建委員会(佐賀商工会議所、佐賀県、佐賀市など)などによる除幕式が盛大に開催されました。場所は、佐賀城二の丸跡(佐賀城鯨の門の北側)です。(別添：除幕式写真)

反射炉を模した台座・基壇と合わせ、高さは8.5メートルあります。銅像の原型は、佐賀大学芸術地域デザイン学部の徳安和博教授が制作されました。

平成26年から始められた募金活動は、目標の1億円を超え1億4千万円、20都道府県から浄財が寄せられました。関心の高さが伺えます。

「鍋島直正公の銅像」は、大正2年(1913)に生誕100年を機に大隈重信を委員長として一度建設されましたが、昭和19年に先の大戦のため供出されました。

「10代藩主鍋島直正公」は、1830年(天保元



年)に17歳の若さで藩主の座につき、藩財政の立て直しや人材育成に努めるとともに、長崎港の警備という重要な任務もあり、日本初の鉄製大砲の鑄造、精錬方による最先端の科学技術研究、三重津海軍所(平成27年7月世界遺産登録)設立、日本初の実用蒸気船「凌風丸(りょうふうまる)」の建造など、新たな事業を積極的に推進しました。

また、鍋島直正公と島津斉彬公が母方のいとこ同士であることも非常に興味深いものがあります。佐賀城本丸歴史館では2月3日から3月20日まで「直正と斉彬」展が開催されました。

佐賀市では、2月11日から3月31日にかけて第17回「佐賀城下ひなまつり」が、佐賀市歴史民俗館や徴古館(鍋島報効会)などを中心に開催されました。2月11日の開会式(写真：旧古賀銀行)には、鍋島家15代当主の「鍋島 直晶」氏も出席されたところでした。

佐賀県では、2018年が明治維新150年になることから、「肥前さが幕末維新博覧会」を、佐賀城本丸歴史館などをメイン会場に、県内市町と連携して全県的に取り組まれます。機会がありましたら、ぜひ、その取り組みに触れていただければと思っております。

西川 末実(経済・昭49入)



# 佐賀大学周辺の思い出

同窓生の皆さん、最近佐賀大学周辺に行かれましたか？佐賀市内にお住まいの方はご存知だと思いますが、昔の面影がないほど整備されてとても奇麗になっています。

特に正門から入ってすぐのエリアは美術館やカフェが建設され、都会の私立大学にも負けないほどモダンな雰囲気となりました。

また、大学東側は片側2車線の広々とした道路が整備され、私が30年前に入学したときの車道と歩道の境がないような狭い道路の面影は全くありません。

当時、大学東側の道沿いには焼き鳥屋が数件



並んでいて毎週のように友達と集合して楽しい時間を過ごしていました。安くて美味しい焼き鳥は貧乏学生にとって最高のごちそうでした。その焼き鳥の味と狭い道路が一緒になって私の青春の思い出のひとつとなっています。

道路拡幅後、お店は近くに移転して営業は続けていたのですが、何となく当時と違うような気がして足を運ぶことはありませんでした。しかし、昨年、卒業以来初めて訪れる機会があり、最初はお店の雰囲気の違いに戸惑いましたが、定番の豚バラを食べた瞬間に当時の記憶が鮮明に蘇ってきました。就職してからは高級な焼き鳥を食べる機会もありましたが、やはり私にとって焼き鳥はこの味だと感激し、その後は家族を連れて訪れています。

同窓生の皆さんにとって大学時代の忘れられない風景や味は何でしょうか？機会があれば是非佐賀大学周辺を散策されて、当時の思い出を探されてはいかがでしょうか。

坂本 裕三（管理・昭62入）





# 同窓会会長賞を受賞して

～図々しく何事にもチャレンジ出来る佐賀～

経済学部4年 岡島 貴弘

佐賀大学で思いきりやりたい事をさせてもらった者として伝えたい事は

- ①佐賀の、コンパクトで強いコミュニティを使いまくろう
- ②可愛いがられる図々しさと、感謝の気持ちを忘れない謙虚さが大事という二つです。

僕の活動の紹介は長くなるのでキーワードだけ挙げると、ネット選挙／東北支援／多久の町おこし／コーヒー朝活という感じで、活動を始めるキッカケは大学入学前に幼馴染みの女の子にフラれたことと、ダサイと言われる佐賀をイケてる所にしたいという気持ちでした。そして今回賞を頂いたものの、色んな事に挑戦できたのは、活動の度にたくさんの人が協力してくれたからです。友達、先輩、先生、ご近所さん、市や県の職員さんなど「地元をどうにかしたい」という気持ちの人達が佐賀ではなぜかみんな繋がっていて、独特のコミュニティを作っています。自分が専門外でも「それだったらこの人！あの人！」という感じで得意な人を紹介してもらって、想像をはるかに超えるスピードで物事を進めていくことが出来ました。もちろん、自分で出来るところはとにかく本気でやるというのが前提ですが、何かチャレンジする場所として佐賀は本当に最高の場所なので、若さを武器に遠慮せず図々しく佐賀の先輩達に頼ってほしいなと思います。直近で困っている人がいれば、佐大の面白い学生達が唐人町で運営している「En-trans」というシェアハウス、コミュニティを調べて相談してみるのが一番オススメです！

最後に、僕はこれから空間にアートを提案する仕事をしながら生きていきます。大学に入る前は思いもしなかった進路ですが最高の選択だと思っています。大学時代は自分の可能性を思い切り広げる事が出来る時間なので、無理そうなことでも自分の興味を持った事や人に対して是非、どんどん挑戦してみてください！



空間にミューラルアート(壁画)の提案をする仕事の初案件。アーティストさんと、カフェの店長さんと。左(岡島貴弘さん)

## 支部だより

### ◎佐賀大学同窓会 鹿児島支部総会・懇親会

平成29年1月28日(土)18時30分から、鹿児島市「レクストン鹿児島」において、鹿児島支部総会・懇親会が開催され、同窓会本部から金丸同窓会会長、宮尾有朋会会長、川副農学部同窓会会長、島理工学部同窓会副会長、西川楠葉同窓会副会長の5名が出席しました。

鹿児島支部会員は、竹下顧問、上田支部長を含め10名の出席でした。そのうち楠葉同窓会メンバーは文理学部及び経済学部卒の5名の参加が 있습니다。

上田支部長あいさつの後、金丸同窓会会長あいさつ、竹下顧問の乾杯と続き、佐賀から持参した「悠々知酔」や地元の焼酎を楽しみながら、



竹下顧問の巻頭言、近況を含めた自己紹介などがあり、皆さんテーブルを回りながら話に花が咲いていました。

西川 末実 (経済・昭49入)

### ◎関西支部総会に参加して

2月11日(土)は全国的に寒波となり、珍しく佐賀地方でも5cm程の積雪であった。関西支部の総会は初めての出席であり、遅刻でもしたら「やばい」と思い予定時刻よりも1時間ほど早めの行動をとった。列車の指定席をとっていたが、早めの列車であれば自由席で乗車可能であり、飛行機と違いその融通性に何とはなく再評価したところであったが、お蔭で大阪梅田の神仙閣には余裕を持って到着することができた。

関西支部は県外支部のなかでも歴史ある組織であり、昭和28年文理卒業生である陶山良夫先輩(大先輩)については、これまで関西支部代表として佐賀での楠葉同窓会総会にも出席されていたので御尊顔だけは拝していたが、一時休会のやむなきに至っていたとの話を聞いていた。

関西支部は今回再開されて2回目の総会であること、私にとっては会長就任後初めての参加であること、弓道部の後輩からの賀状で早々の参加要請を受けていたこともあり楽しみにしていたが、予想たがわず素晴らしい同窓会であった。

出席者は約60名で、うち文理卒業生12名、経済卒業生12名で約4割が楠葉同窓生であったこと、来賓紹介は全員ひな壇で紹介されたこと、自己紹介が一人ずつ全員で行われたこと、懇親会終了後も喫茶タイムが設けられていたこと、欠席者からのコメントが145人分まとめられていたこと、など、他支部にはない工夫がなされていた。

新支部長 田中誠氏(理工 47年卒)を中心とする役員の方々のご尽力に敬意を表するとともに、歴史の古い組織ならではの、また関西の人ならではの暖かい雰囲気の中で同窓生各位との交流が深められたことを感謝します。

文責 江口 洋一  
(経済・昭44入)





# 退職にあたって

全学教育機構 諸 泉 俊 介

佐賀大学では、学生としての4年間、教員としての17年を過ごしました。それほど長い年月ではありませんでしたが、佐賀大学からは、数々の宝を頂きました。

1971年、私は、経済学については何も知らぬまま、経済学部に入りました。経済学部に入れてもらったというのが、本当のところでした。当時の経済学部では、学生ゼミナールの活動が盛んでした。ゼミといっても、4年生が1年生を相手に教育を行うもので、教室は教官研究室でした。私が偶々参加したのは『資本論』をテキストにしたゼミで、私が最初に買った専門書は大月版5巻組みの『資本論』でした。この本は使い古してぼろぼろになり、今なお私の本棚に鎮座しています。学部学生には『資本論』の十分な理解は困難でしたが、社会の仕組みを熱く語る先輩の姿に魅了され、経済学の面白さが臍気ながらも判った気がしました。良くも悪しくも、私の行く道と生き方を定めてくれたのは、この学生ゼミナールでした。

入学して直ぐに、私はある文化サークルに入りました。蓮根畑の東にあったサークル村には多くの奇人・変人が出入りしており、毎日、わくわくするような「事件」を引き起こしてくれました。彼らと無益な雑談に興ずる日々はまことに楽しいものでした。2年生になるとサークルの運営を任されました。当時の大学では、不知火寮の寮費問題を始め、様々な問題が次から次へと生じ、サークルも、本来の活動と共に、こうした問題を討議する日々でした。キャンパスの南端にあった不知火寮には、赤禪を締めて学内どころか街にまで繰り出す野蛮人どもが住んでいました。寮費問題は、この野蛮人から100円の光熱費を徴収するというものでした。ある日、部室で飼っていた赤犬が野蛮人どもに食べられるという事件が起きました。この赤犬に私たちはロンノルという名前をつけていたのですが、今にして思えば、カンボジアの方々にとっては失礼な話です。赤犬を喰った野蛮人の中には私の友人やサークルの先輩もいたのですが、

赤犬の所有権を巡って彼らと真面目な顔で議論しました。何とものどかな時代でした。世の中で最も危険な生き物は人間だと確信する私が、人間との付き合い方、話し方、そして人間組織のまとめ方という、社会で最も必要な技能を学んだのは、このサークル活動でした。余談ですが、私の生涯の伴侶も、このサークル活動のおまけとして頂きました。

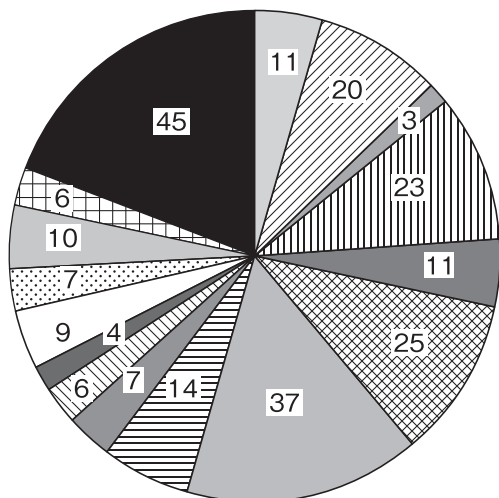
2000年、縁あって、私は母校に戻りました。大学は近代的な姿に変貌していました。正門東の本部として使われていた旧制高等学校時代の建物は取り壊され、跡には教養2号館が建っていました。学部時代にダンスパーティーと称して荒稼ぎをしていた文理学部の教室は大きくなった経済学部の研究棟に建て変わり、キャンパスの西端にあった運動場には理工学部や農学部の高層ビルが建ち並んでいて、ここは東京の大学ではないかと思ふほどでした。しかし何よりも驚いたのは、メインストリートに立ち並ぶメタセコイアの巨木でした。学部を卒業する間に、メインストリートに細い木々が植えられたのを覚えていました。大学の説明では、メタセコイアの並木を作るとのことでした。メタセコイアが沼杉だと気づいたのは、数年後のことです。それでも、教養2号館の西に一本だけ、メタセコイアが混じって立っていました。沼杉に比べると発育不良の木で、今は切り株だけが残っています。

暇な時には、よく学内を散歩しました。春の満開の桜、秋の唐楓や銀杏の紅葉は、それは見事なものでした。しかし私が最も好きだったのは、早春の人も疎らなキャンパスに立つ沼杉の並木です。まだ芽吹いてはいない筈の木々が、朝日の中で薄っすらと萌黄色に輝くのです。目の錯覚がどうかは判らないのですが、見飽きぬ風景でした。佐賀大学は、美しい大学です。不出来な私が兎にも角にも人生を全うしえたのは、この美しい大学で出会った様々な人たちのお陰です。母校から頂いた宝物に、心より感謝いたします。



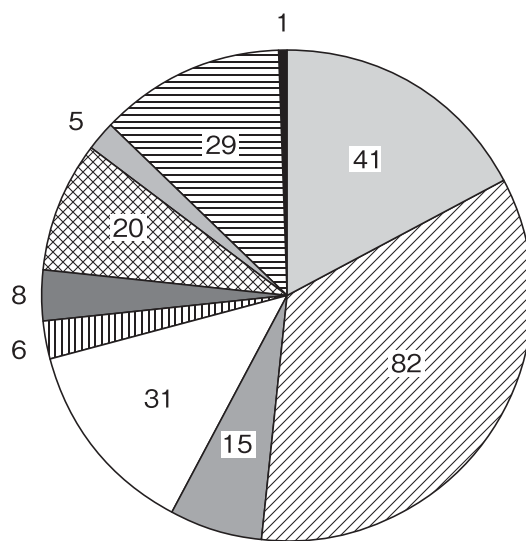
# 経済学部就職状況

産業分類別就職者



- 建設業
- ▨ 製造業
- 電気・ガス・熱供給・水道業
- ▤ 情報通信業
- 運輸業・郵便業
- ▨ 卸売業・小売業
- 金融業・保険業
- ▨ 不動産業、物品賃貸業
- 学術研究、専門・技術サービス業
- ▨ 宿泊業、飲食サービス業
- 生活関連サービス業、娯楽業
- 教育・学習支援業
- ▨ 医療福祉
- 複合サービス業
- ▨ その他サービス業
- 公務員

地域別就職者



- 佐賀県
- ▨ 福岡県
- 長崎県
- 九州その他
- ▨ 四国
- 中国
- ▨ 近畿
- 中部
- ▨ 関東
- その他

## 先輩との交流は、後輩たちの心の支え

—就職は順調—



経済学部就職委員長 平地 一郎

楠葉同窓会の皆さま、経済学部学生の就職のための支援を頂いていることに、心から感謝申し上げます。今年3月に卒業した学生たちの就職は、今までになく順調でした（掲載しているデータは昨年のものですが、これも一昨年より良好で、今年はさらに上回っています）。就職委員を始め教員一同、ホッとしているところです。

もちろん、近年、新規採用市場が好転していることもありますが、しかし本学部の多くの学生がチャレンジしている企業での求人倍率は1.0を切っているとも言ってもよく、依然として「買い手市場」であることに変わりはない

ありません。そうした厳しい状況の中で、学生の就職活動が順調に進んだ一つの要因は、楠葉同窓会懇親会での卒業生と学生との交流会にあるものと思います。

50周年を記念して平成27年10月に開催した経済学部ホームカミングデーでは、当時の3年生（今年3月の卒業生）たち自身が企画し、また、その後の分科会では卒業生の皆さまとの活発な交流ができたこともあって、自信を持ってその後の就職活動を行っていたようです。先輩との交流は、後輩たちの心の支えになるのでしょうか。昨年の分科会は学生の参加がやや少なかったものの、交流の意義は大きいので、今後もそうした機会をお願いしたいと思います。

学部就職委員会も、学生に対する就職支援活動を強める所存です。どうぞ、ご支援をよろしく申し上げます。

「葉隠」に学んだ、勤勉・強い義務感  
4年間の貴重な体験に感謝して



尊敬する祖父が幼い頃から、旧制佐高のバンカラ学生の姿や「葉隠」の意味などをよく語ってくれた縁もあってか、佐賀大に進学、寮生活を含め4年間を過ぎたが、その波瀾に富んだ思い出は今でも夢の中に蘇る。佐賀の先駆者はやはり鍋島閑叟(直正)。徳川二五〇年の中、一貫して肥前の領主、保守的ながらも潔癖な鍋島の気風を育てた。次の漢詩をぜひ味わって頂きたい。

先見祖生の鞭(鍋島閑叟)に学ぶ

作・吟 臼井 寛

脊振千山に久闊を叙せば、その秀麗なる山容変わらず  
弘道館を範と仰ぎ、切磋琢磨して四歳を過ぐす  
石門に別れを告げて幾星霜、今日將に再会を喜ぶ  
天に謝す壯健長寿の恵み、共に仰ぐ閑叟祖生の鞭

(解説) 鍋島閑叟：満十七歳で第十代藩主についた鍋島直正の晩年の名称。佐賀藩の英明な藩主。鉄製大砲の製造など幕末期、技術力で幕府や他藩を圧倒し江藤新平・大隈重信など開明的な藩士を多く育てた。明治新政府では岩倉具視と共に、太政官に任命され、新国家の建設に貢献した。

(語記) 先見：先を見通すこと。祖生の鞭：人に先駆け物事をする事。千山：多くの連なる山々。久闊を叙す：久し振りに会って話をする。弘道館：鍋島藩校1840閑叟は施設を数倍に拡張し学舎、大講堂、寮の他に武道場、馬術訓練場を設け文武両道の殿堂とした。切磋琢磨：道徳、学問に努め励んでやまないこと。幾星霜：長年の年月。

(佐世保重工・ソニー時代から詩吟に勤しむ)  
佐世保「むつごろう会」会長 臼井 寛  
(文理・法律 昭30入)

事務局日誌 (◇印は楠葉同窓会)

- H28. 11. 01◇楠葉同窓会会報「なんようNo104」発行
- 02◇楠葉同窓会懇親会実行委員会反省会／おさかな屋道場
- 04・佐大同窓会「長崎支部総会・懇親会」／ホテルニュー長崎
- 07・佐大同窓会「学生支援部会」「支部強化部会」会議
- 12・佐大同窓会「東京支部総会・懇親会」／新橋亭
- 19・第24回佐賀県青春寮歌祭／エスプラッツホール
- 19・佐大同窓会「佐世保支部総会・懇親会」／レオプラザホテル
- 20・佐大同窓会「伊万里地区会」／伊万里公民館
- 24◇楠葉同窓会「2017年版会員名簿」発刊
- 24・佐大同窓会「学生支援部会」「組織強化部会」会議
- 26・佐大同窓会「諫早支部総会・懇親会」／L&Lホテルセンリュウ
- 26 佐賀大学ホームカミングデイ
- 30・キャリアデザイン講座／講師；窪 淳朗氏(教育学部卒)
- 12. 07・キャリアデザイン講座／講師；立石晴久氏(理工学部卒)
- 08・佐大同窓会「代表役員会」
- 14◇「経済学部と楠葉同窓会の意見交換会(交流会反省会)」／菱の実会館
- 21・キャリアデザイン講座／講師；岩下幸司氏(農学部卒)
- H29. 1. 01・佐大同窓会会報「楠の葉No26」発行
- 17◇楠葉同窓会「役員会」と「新旧役員懇親会」／楊柳亭
- 19・佐大同窓会「情報部会」
- 20・佐大同窓会「佐大支部総会・懇親会」／菱の実会館
- 25◇経済学部と就職支援講座について打合せ
- 28・佐大同窓会「鹿児島支部総会・懇親会」／ルクストン鹿児島
- 2. 02・佐大同窓会「支部強化部会」
- 04・佐大同窓会「有田地区会」／有田ポーセリンパーク
- 05・佐大同窓会「小城・多久地区会」／寿屋別館
- 07・佐大同窓会「庶務部会」
- 11・佐大同窓会「関西支部総会・懇親会」／神仙閣
- 16・佐大同窓会代表役員会
- 21◇楠葉同窓会会報「なんようNo105」編集会議
- 3. 15◇楠葉同窓会役員会
- 24 佐賀大学平成28年度学位記授与式
- 24 佐大同窓会「同窓会会長賞」表彰

編集後記

3月24日(金)は、佐賀大学の学位記授与式が佐賀市文化会館で挙行されました。まだ少し肌寒い中、多くの学生は会館の玄関前で親御さんや「カッチーくん」と記念撮影をされていました。職員の落書きから始まった「カッチーくん」は、2008年に大学の公式キャラクターに昇格しました。当初は、まだ着ぐるみはなく、当時カッチーくんのプロデュースの任を預っていた私は、どうやってその費用を捻出したものかと思案していましたが、佐賀大学生協から助け舟をだしていただきました。ということで、着ぐるみカッチーくんの初お披露目は、五十嵐佐賀大学生協理事長から学長のもとへお婿入りするという寸劇(!?)となっています。(ご興味のある方は、YouTubeの動画をご覧ください) 今では、学内外のイベントへ引っ張りだこのカッチーくん、どこかで見かけたらぜひ声をかけてあげてください。

松尾 和俊(経済・昭58入)

発行 佐賀大学楠葉同窓会  
佐賀市本庄町 佐賀大学菱の実会館内  
TEL 0952-23-1253  
FAX 0952-25-5700  
E-Mail: dousoukai@sadai.jp

発行者 江口 洋一(経済・昭44入)  
編集者 松尾 和俊(経済・昭58入)  
代表者 郵便振替 [01760-9-25635]